

磐城時報

編輯 石城郡平野町野田十四
印刷 磐城郡平野町野田十四
發行 磐城郡平野町野田十四
電話 磐城郡平野町野田十四
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

仁井田川の汎濫に 悩まされる關係村民

四十五萬圓で護岸工事の陳情 十一日大野村長等出縣

石城郡大野村から大浦村に流れ通じ百圓を貧困者に寄附した事
る仁井田川の上流玉造川は毎年昨報の如くであるが、十三日は
出水の度に堤防が破壊し水田同様に無名氏から五圓の寄附があ
流し莫大の損害を被つてゐた。

阿彌院如來の 尊禮鑄造

石城郡大野村字吉田好次郎氏
は同字の阿彌院如來の尊體を造
氏と出縣した、尙ほ該工事に要
する費用は大抵四十五萬圓であ
る。

無名氏から 五圓寄附

舊盆に際し無名氏が平町役場を
て與殿の増築を行ふ計劃であ
るが同氏は更に一圓を寄附し
て盛大な入佛式を舉行する等
である。

群小炭礦労働者に 歓迎される賃銀保護法

賃金不拂から救はる

政府では財界不況に基き労働賃不拂に苦しめられてゐる多数炭
銀不拂問題が社会問題として労働者にまつてはこよなき福
こぶる重要性を帯び来たつたの音であり、殊に右案に對する内
でこれが根本的對策として新た 務省社会局の腹案中には從來炭
に賃銀保護法を制定し通常議會 礦労働者雇傭上の福と稱されて
に提案することに決定したと傳る 飯場制度にも及び數次の請負
へられる。これについて磐城各 元請負をして労働賃銀支拂の
炭礦中いはゆる群小炭礦で賃銀 責任を持たしめ從來の労働者に

ら労働者の多い大炭礦には見
受けられないが、群小炭礦は
労働者の團結闘争力が薄弱な
だけに不拂の事實が多い。賃
銀保護法が制定されればこ
の憂ひも絶滅するわけで炭礦
労働者は安んじて働くことが
出来るから喜ばしいことだ。

小田部署長 十七日着任

對する不當搾取と賃銀不拂を
掃する外労働賃銀支拂に關する
時効を延長して五ヶ年となし事
業主をして賃銀の一ヶ月乃至二
ヶ月相當金額を供託せしめこれ
と同時に重役をして使用労働者
の賃銀支拂保障の責任を負はし
める等目的を以て關係各炭礦
坑夫連は實現に絶大なる期待を
かけてゐる。

舊盆中の天候 時々通り雨がある

小名濱測候所の觀測

若人達が一年一度の歡樂に酔ふ
舊盆は愈々十四日からである
が、本年は土用前から快晴續き
で蚊の涙ほどの雨も降らなかつ
た處一兩日前から何となく雨模
様なので一般で盆中の天候を氣
遣つてゐるが、右について小名
濱測候所の大体の豫測を聞くこ
とである。

度量衡検査

▲度量衡検査 四倉町度
量衡検査は二十五日、二十六日
兩日午前九時から同町役場で執
行する。

山主を殴り倒す 盗伐中發見され

石城郡三坂村大字差遣農草野政すべく松丸太を振つて留太を滅
勝(二)は去る四日同所地内山茶々々に毆打顔面頭部に全治一
林で縦の盜伐中見廻り中の所有ヶ月の重傷を負はせ昏倒するを
者同村雜貨商熊谷留太(五三)に見濟まして逃走したが、十二日
發見されたので逃走犯跡を晦ま平署員に捕はれた。

兵役免除を悲觀し 海軍兵が縊死

川前村大字下桶賣野田朝治(二
五)は昨年續須賀海兵團に入團
したが去る五月病氣のため兵役
を免除され除隊となつたので悲
觀し十日午後六時頃神奈川縣藤
澤町クゲマ海岸で縊死を遂げ
た旨十二日郷里に通知があつた

失業者調査

四倉町役場では漁港修築工事に
使役する労働者調査のため去る
五日と九日の二回に亘り町内失
業者を調査し約六百名を登録し
て失業證明書を交付したが、尙
ほ二三百名の調査漏れがあるの
で近く第三回の調査を行ふと。

猪狩清氏 平町に居住

退職した郡山署長猪狩清氏は平
町に居住する事となり十二日來
平南町に寓居を定めた。

大浦消防異動

▲大浦消防異動 石城
郡大浦村消防組第一部長賀澤
喜市氏小頭に任命、第三部長
若松茂作氏は部長に任命、第四
部長小頭酒井善吉氏辭職、後任
木安太郎氏任命された。

夫が家出

郡山市字細沼北村留藏(二六)
は去る六日夜七百圓の貯金通帳
を持つて無断家出したが、平町
に居るらしいので十三日平署に
捜索方を願ひ出た。

満洲から

歩兵三十聯隊本部
(一) 江 尻 進
小官只今公務の爲旅順に出張
中に候が寸暇を得候ま、暑中
御舞舞々近況御報告申上し
御参考を致し度き存念に御
座候幸に御一讀の榮を賜らば
小官の幸之に過ぐるもの御座
なく候

光すら認め得ざるの故を以て
軍隊援護の下に工事に着手九
月中には完成の豫定に御座候
吉林を出で、敦化に向ふ途中
は極めて深き森林地帯にして
地勢又峻峻を極め恰かも内地
の山間を行くごとく何等變りなく
小官をしてさうに平一郡山
間の旅行を思はしむるもの有
之候、吉林發間もなくして有
名なる松花江の大鐵橋有之候
警戒中にて未だ襲撃の厄に合
ひたる事なく候も一度同橋
梁破壊されんか吉敦線に配置
されたる數千の皇軍は忽ち後
方連絡を断たれ總ての物資供
給不可能を惹起する事勿論に
して同橋梁は實に吉敦線の生
命と稱する、當然と愚考仕候
行一事三時間餘にして蛟河驛
有之候其間大小無數の橋梁と
大隧道、列車經過時間六分余
有之候も橋梁は總て木造の爲
匪賊の爲再三再四燒却の憂目
に逢ひ列車不通事故も十指に
余り申し候

情夫と駈落

江名町字北町四六幸松妻雨澤チ
ヨ(二四)は最近不漁續きで貧困
に苦しみ三歳の子供と病氣で寝
てゐる老父及び不具の母を残し
て八日情夫某と家出したので十
三日夫から捜索方を願ひ出た

料理番と 藝妓駈落

石城郡小名濱町本町藝伎置屋す
まや事小花長太郎方抱へ藝妓こ
御舞舞々近況御報告申上し
上より事高田あき(三三)は去る七
日東京生れの料理人自稱高橋
政雄(二六)と同町飲食店新米方
で十餘圓の無錢遊興をなした揚
句こよはは前借三百圓を踏倒し
兩名は手に手を執つて行方を晦
ましたので十二日小花は平町に
捜索方を願ひ出た。

死体遺棄で起訴

▲死体遺棄で起訴
双葉郡油島村會根星山は(一)
八、假名が六月中不義の子を産
み同村山林中に遺棄した事件は
平檢事局市川檢事が取調中で
あつたが、醫師の鑑定により嬰
児死産と判明したので
死体遺棄罪として十一日起訴さ
れ近く公判開廷される。

